



# 亀っ子だより

第11号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2019年10月4日

## 運動会、ありがとうございました

9月28日（土）暑すぎず、雨も降らず、ちょうどよい天候の中、運動会を行うことができました。結果としては、赤が得点を大きく伸ばし、白組は悔しい思いをしたかもしれません。しかし、最後まで諦めない姿、最後まで力一杯競技する姿を子どもたちは随所に見せてくれました。私にとって、その姿が何よりうれしいものでした。

1・2年生の「マッ！スカッといれましょう！（玉入れ）」では、子どもたちが楽しそうに競技に取り組み、勝敗をきちんと受け入れる姿をうれしく思いました。3・4年生の「台風令和元年号接近中！（台風の日）」では、4人で作戦を考え、力を合わせて競技する姿に感心しました。5・6年生の「MuKaDeN・Go！（ムカデ競争）」では、練習の成果を発揮し、見に来てくれた人が思わず拍手してしまうほどの走りを見せてくれたチームにびっくりしました。「燃えよ！轟け！赤白大合戦！（騎馬戦）」では、とられそうな帽子を騎馬と乗っている子が一体となってこらえている姿がとても印象的でした。最後の種目の代表リレーでは、代表選手のプライドを感じる力一杯の走りに感動しました。

2学期が始まり4週間、子どもたちは練習する中でいろいろなことを感じ、考え、当日を迎えたことと思います。一回りも二回りも大きくなった子どもたちが、これからどのような姿を見せてくれるのか楽しみにしています。

## 私にとっての至極の時

運動会練習に取り組んでいる期間の朝、廊下を歩いていると各クラスから応援歌「ゴーゴーゴー」が聞こえてきました。最初は恥ずかしがりながら歌っていたクラスも、運動会が近づいてくると、どのクラスも盛り上がり歌と踊りの練習をしていました。夏休みから活動を開始した応援団は、ほぼ毎日、朝から練習を行っていました。その姿から、学校のリーダーとしての自覚を感じました。1・2年生の廊下を歩いていると、マスカットを練習している教室にたびたび出会い、廊下から見ている私と教室の子どもと目が合うといつもニコッとしてくれました。体育館や運動場からソーラン節の音楽が流れてくると、生き生きとした目で動きを決める子どもの姿に出会い、凛としたものをいつも感じていました。そして、このような子どもたちの姿の隣に、いつも先生たちの姿がありました。子どもたちが本番を迎える日まで力を合わせて努力する姿、それを支える教師の姿は、追い求める学校のあるべき姿だと感じていました。運動会を迎えるまでの日々が、私にとって至極の時でした。

## 保護者の皆さん、地域の皆さんに感謝

運動会が終わってから教頭先生が学校の校地内を歩いてくれました。そして「これだけしかゴミが落ちていませんでした」とゴミ袋を見せてくれました。大きなゴミ袋にほんのわずかなごみと空き缶が一つ入っただけでした。私も教頭時代から、運動会が終わると校地内のごみ拾いをいつもしていましたが、これだけ少なかったのは

初めてです。600人の子どもとその保護者、地域の方々がここでお弁当を食べたと  
はとても思えませんでした。

私の経験上、競技の途中、朝礼台の横まで来て写真を撮る保護者の方、地域の方が  
いて、対応に困ることが何度かありました。私は、運動会の最中、ずっと朝礼台の後  
ろにいましたが、亀崎小ではそのようなことは一切ありませんでした。

亀崎小の保護者の方、亀崎地区の地域の方のマナーの良さを強く感じました。感謝  
・感謝です。

## 当日の後片付けの風景

運動会終了後、「片付けまでが運動会です。みんなで力を合わせて後片付けを行い、  
最高の運動会を締めくくろう」と山口先生の号令で、5・6年生の子どもたちと先生  
とで後片付けが始まりました。そこになんと、見学に来ていた亀崎中の吹奏楽部やバ  
レ一部などの先輩も加わってくれました。テントを片付け、万国旗を降ろし、使った  
器具を体育倉庫にしまい、運動場に打ってあるペグを抜き・・・たくさんの仕事が次  
々と終わっていきました。最後に、5・6年生が集合し、「みんなのおかげで最高の  
運動会を最高の形で締めくくることができました。お疲れ様でした」と山口先生が子  
どもたちに声をかけ子どもたちが礼をすると、最後まで残っていてくれた先輩たちか  
ら拍手がおこりました。見ていて、すがすがしい光景でした。礼儀正しく、気持ちの  
よい集団に成長してきたと感じ、とてもうれしく思いました。

## ♣ 子育てアラカルト ♣

### 【子どもの成長段階】

子どもには3つの成長段階がある。人だけではなく、どんな動物でもそうだ。

① 抱いて      ② 降ろして      ③ 一人にして

という順番で成長していく。

そして、これには飛び級はない。階段をしっかりと踏みしめて上がるようにゆっくり  
と成長していく。

あなたの子どもは今どの段階だろうか。もう一度言う。飛び級はない。だから年齢  
はあまり関係ない。たとえ子どもが何歳になっていようとも、もし「抱いて」の段階  
を手抜きしていたのなら「無条件に抱いてやる」ことからやり直すのだ。

### 【心に刻む詩 1】

〈おとく〉

ママ いつでも

ぼくのこと

ギュッと（だきしめて）

していいよ

ぼくはあったかいから

（6歳 男の子 作）

### 【心に刻む詩 2】

〈だいすき〉

おかあさんだいすき

おとうさんだいすき

なっちゃん（姉）だいすき

たっくん（兄）だいすき

じぶんもだいすき

それじゃないと

生きていけないの

（5歳 女の子 作）

### 【心に刻む言葉】

人は自立はできても、孤立はできないのです。

家族の温かい人間関係に支えられてこそ

本来の自分らしさを生きられるのです

（ある教育者のひとり言 より）